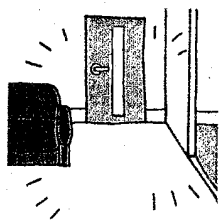


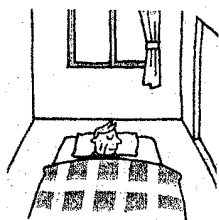
家の中の安全対策

家の中に逃げ場となる家具のない安全なスペースをつくる

部屋が複数ある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるように、配置換えをする。



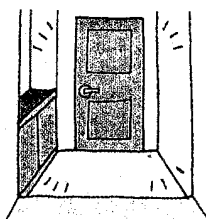
寝室、子ども・高齢者・病人のいる部屋には家具を置かない



就寝中に地震に襲われたとき、倒れやすい家具があると危険。

出入り口や通路には物を置かない

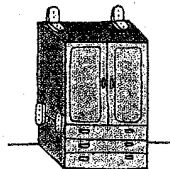
安全に避難できる通路を確保するため、できるだけ物を置かない。



家具の転倒や落下を防止する対策をとる

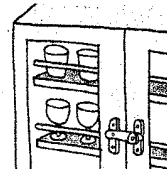
重い家具や背の高い家具は、固定器具や「耐震粘着マット」などを利用して対策を。ただし、金具や支え棒の場合、取り付けの天井や壁に相応の強度が必要になるので設置場所を十分検討する。

タンス・本棚

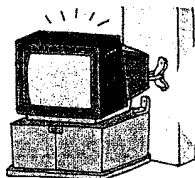


L字金具や支え棒などで固定。二段重ねの場合はつなぎ目も金具でしっかり連結しておく。

食器棚

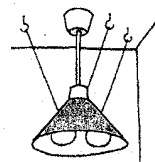


扉が開かないように留め金をつける。さらに収納物の落下を避けるために棚板には滑り止めのシートやふきんを敷くと安心。



テレビ

できるだけ低い位置に置き、柱などに金具でしっかりと固定する。上には水槽や花瓶などを置かないこと。



照明器具

鎖と金具で数か所留めて補強。蛍光灯は、蛍光管の落下を防ぐため、両端を耐熱テープで留めておく。

家の周囲の安全対策

屋根

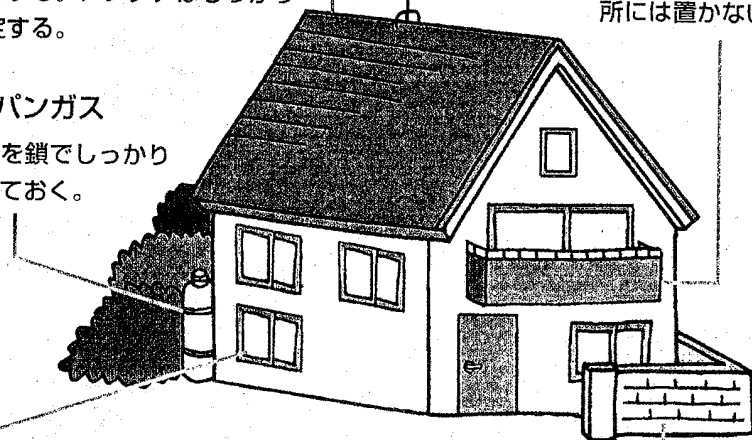
かわらのひび割れ、すれ、はがれ、トタンのめくれ、はがれは補修する。アンテナはしっかり固定する。

ベランダ

ベランダからの避難を想定し、常に整理整頓を。植木鉢や物干しざおなどは落下の危険性がある場所には置かないようにする。

プロパンガス

ボンベを鎖でしっかり固定しておく。



窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。

ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは補強を行い、ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

ブロック塀のチェックポイント

- 亀裂やぐらつき、傾きはないか
- 高すぎないか (2.2m以下)
- 基礎が深く地中に入っているか
- ブロックの厚さは15cm以上あるか
- 控え壁は設置されているか
- 増し積みはされていないか
- 鉄筋はきちんと入っているか
- 建築後20年以上経過していないか